



アカシアの木から抽出したタンニン液に漬けて、丹念に皮をなめす。今も昔も、そしておそらくこの先もこの光景は変わらない、良き伝統だ

日本が誇る コードバントナーの挟持

Factory



新喜皮革

兵庫県姫路市花田町
小川1166
TEL.079-224-8136
商品問い合わせは
TEL.079-284-8560
<http://shinki-hikaku.jp>

Color & Good Looking Products!

#1 TANNER

専務の新田さん。コードバンのさらなる普及のため日々汗を流す

な めらかでしっとりとした独特な質感と、緻密な繊維で牛革の2〜3倍という強度を誇るコードバン。その稀少さと生産までにかかる手間暇から、いつしか人はこの革を「革のダイヤモンド」と呼ぶようになった。

そのコードバンを60余年の間、つくりつづけているタンナーが、姫路にある新喜皮革だ。周知の通り、コードバンとは馬革でん部の皮革のこと。馬革専門にコードバンを産出するタンナーは、世界広しといえども同社だけだという。

「コードバン生産のための設備はとて大がかりで、通常の皮革に比べて長い時間が必要です。とても一朝一夕ではできない仕事なんです。だから、60年の歴史を持つ私たちは、どこよりもコードバンを知り抜いているという自負があります」と、専務の新田さん。

早速、同社工場を案内してもらおうと、塩漬けにされた馬の原皮がまず出迎えてくれる。これらはすべて食用馬の副産物。「人間が生きていくためにいただいた命を、あますところなく大切に使用させていただく。馬に対する感謝の念がないと、いい革は生まれません」

この原皮をコードバンになるでん部とそれ以外の部分に切り分け、脱毛作業などの準備工程を終える。ここまでで2週間もの時間を費やすという。そして、皮はタンニン液の入ったピット槽に漬け込まれる。コードバンの強靱な繊維を損なわないよう、濃度の低い槽から高い槽へと移しながら、一カ月もの時間をかけ徐々に繊維にタンニン液を浸

庄巻のコードバンの乾燥風景。月に2500ものコードバンがここから世界に送られていく

